

【3】研究の取り組み

1. 経過の概要

年度	取り組みの概要
1 0	生徒一人ひとりの単元における目標を設定（生活単元学習を中心に）
1 1	個別の指導計画の作成 個別の指導計画をもとにした授業づくりの模索（生活単元学習を中心に）
1 2	研究領域 課題学習 自分づくりの表の見直し 個別の指導計画の目標の検討 課題学習やからだづくりなどの教育課程における位置づけの検討 生活単元学習の指導計画の見直し等
1 3	研究領域 課題学習 個別の指導計画の目標の検討 やったねタイムについての検討 「生活を楽しむ授業づくり」の原稿の検討等 全体授業研究会 やったねタイム Bグループ「つくろう マイバッグ」

※平成13年8月に課題学習の名称を「やったねタイム」に変更した。

2. 課題学習とは

平成8年度の本校研究紀要では、中学部が行っている課題学習を次のように位置づけている。

- 学級担任が個々の生徒の課題を見つけ、指導していく。
- 継続的に取り組む。
- 基礎学力の習得のみでなく、楽しんで取り組むように工夫する。
- 養護・訓練的な課題も含めた取り組みをしていく。

3. 課題学習の変遷

過去の学校要覧から、課題学習の時間帯をまとめたものが表3である。

表3 課題学習の変遷

	平成6年度	平成7・8・9・10年度	平成11年度
課題学習を帯状に設定した時間	（課題学習を設定せず）	朝 35分間	なし
課題学習を1単位時間設定した時間		1時間	3時間
学習内容		身体に関わる内容・基礎学力に関わる内容に分けていた。	主に、ことば・数・作業等を中心とした内容が多かった。

4. 研究領域としての課題学習

平成11年度の取り組みの反省として次の意見が出された。

○生活単元学習と個別の指導計画

この年の授業研究会の中で、個別の指導計画の目標と生活単元学習の授業づくりの関連を考えた。その取り組みの中、個別の指導計画の目標だけをもとにして生活単元学習の単元を作り出すことは難しいのではないかと考えた。

また、中学部の生活単元学習では、生活年齢を意識し、中学生らしい経験や活動の広がりやねらった学習を設定したり、学部全体で取り組んだりする単元も多かった。このため、幅広い中学部生徒の個別の課題に沿う活動設定が困難になる傾向があった。

○個別の指導計画を生かした授業づくりを

個別の指導計画の中に、生徒一人ひとりの目標が掲げられた。しかし、この目標に対するアプローチをする時間は特設されていない。様々な場面の中で、教師が目標を意識しながら指導しているが、個別の指導計画から直接つなげていくことのできる学習時間があれば、生徒一人ひとりの目標をより意識できるのではないかと考えた。個別の指導計画と直結した授業をつくることのできる時間として、「課題学習」を教育課程の中に位置づけようと考えた。

○自閉症児の対応の充実を

自閉症児にとっては、毎日見通しを持てる生活をしたほうが混乱が少ない。変化の多い生活単元学習は、見通しが持てず混乱する要因になることが多かった。中学部の生活の中で帯状に設定される「課題学習」の時間の必要性を感じた。

今後、生活単元学習では、学び合いなど集団での学習のよさを生かして活動することの意義を求めていきたい。一方で、課題学習では、より個別の課題に沿った学習の保障を求めていきたいと考えた。そこで平成12年度から、課題学習の時間数を増やし、前年度以上に充実した取り組みをしていこうと考えた。その中で、個人の課題から学習をつくり上げる方向を探っていこうと考え、研究領域を「課題学習」とした。

5. 研究の構想図

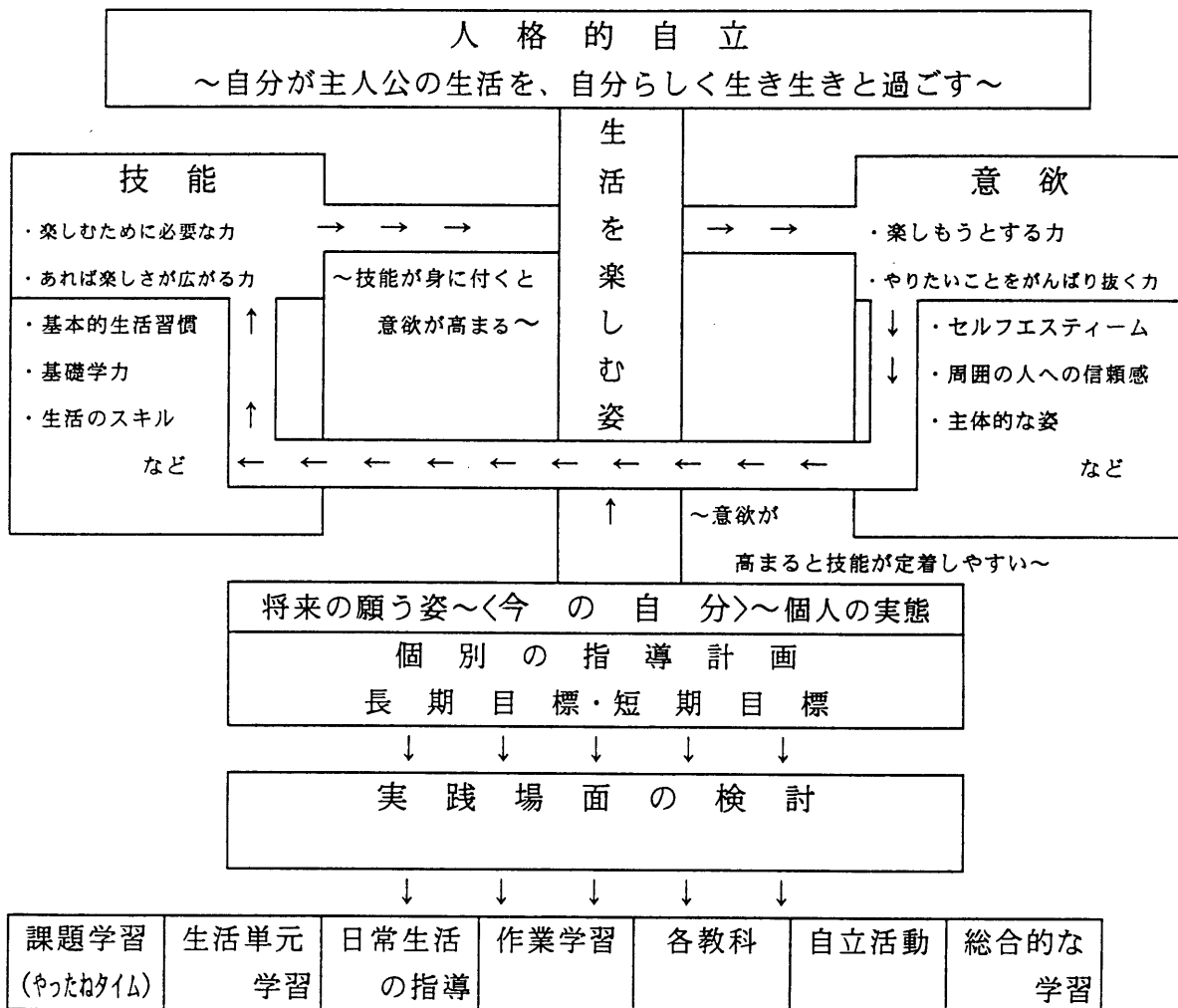
個別の指導計画との関連や、生活単元学習とのつながりを考えていく中で、次のような研究の構想図を作った。

構想図の基本的な考え方として、技能面と意欲等の心情面の循環に注目した。

活動を通して生活を楽しむために必要な技能が身についていき、達成感や成就感を感じることで、意欲が高まる。この生徒の意欲の高まりが次の活動に取り組むエネルギーとなる。次の活動に意欲的に取り組むことを通して、生活を楽しむために必要な技能をさらに広げていくことができる。

このような循環は生徒たちにとっての「生活を楽しむ姿」の一つであると考えた。

中学部研究の構想図



(中垣克彦)

【4】平成12年度の取り組み

1. 週時程の変更

昨年度の反省から、週時程を変更し、課題学習を帯状に設定した。また、週3時間から週5時間へ増やした。